

中国語は英語に似ているか



菊田正信

中国語はよく、英語に似ているといわれる。確かに、
我是学生。（私は学生です。）
という言い方は、

I am a student.

という言い方に似ている。“是”はbe動詞のようだ。

しかし、be動詞はam, are, is, …と変化するが、“是”はいつでもどこでも“是”である。a studentにしたところで、複数であればstudentsとなるが、“学生”は基本的には単複同形である。語順については似ている面もあるのだろう。この例は確かにSVCだ。

中国語は孤立語といわれるが、この際注意すべきは、漢字で表記されることから察しがつくように、中国語は印欧語のように語形変化をしないということである。語形変化をしないと、語と語との関係は語順によって示される傾向が強くなる。また、例えば日本語の助詞のような働きをする語があれば、それによって語と語との関係を示すことができるが、中国語では、それも非常に限定的である。というわけで、中国語の文法書をひもとくと、語順、そして語順を形にした文型についての記述が多いのに気がつく。

ところで、中国語の学校文法が形をととのえたのはそう古いことではない。1949年に中華人民共和国が成立したが、当時識字率は20%にも達していなかった。まずはこれを改善すべく識字運動が展開され、並行して文字改革が進められた。そして一方、全国に通用する共通語の規範化とその普及のためにさまざまな施策がとられた。学校文法の規範づくりはその重要な一環であった。活発な文法論争をへて56年に、暫定の学校文法体系なるものが示された。暫定としながらも、その後の中国における学校文法をしばり、日本で編まれ

る教科書等もこれに沿うことになってしまった。

この暫定案には、しかし、英文法の影が認められる。英語はもともと屈折語だが、語形変化が摩滅(?)して語順の機能が相対的に強くなったことばである。語順については、先んじていた英文法の考え方が参考になったのである。実際、中国語の教科書には英語の五文型に倣って、SV, SVO, SVOO等々の型がみえる。気になることは、英文法のSVを基本にする考え方がそのまま中国語の文法にも導入されたことだ。

例えば、よく使われる次のような文はどう扱うのか。

桌子上放着一个苹果。

“桌子上”は「机の上」，“一个苹果”は「一個のリンゴ」といったこと。“放”は「置く」という意の動詞だが、接辞の“着”を接尾して「置いてある」といった意味になる。“放(着)”と後置されている“一个苹果”との関係は、結論だけを言えばVS風になる。「机の上にリンゴがひとつ置いてある。」という文意である。

このようなVS風の文はSVを基本とする体系にはなじまない。暫定案ではこれをまま子扱いして、特殊な文だとして囲いこんでしまった。84年には暫定案を見直す案が出されたが、そこではあろうことかSV型だとしてしまっている。学校文法とはいえ、中国語の本質にふれる体系が示せなかったのは残念だ。

実は、英語の場合にも似た事情がある。例えば、

There is an apple on the table.

のような、thereを使った存在文などは、ふつうSV型とするが、これも気になるところだ。この辺にこそ、中国語と英語の最も似ているところがあるのかもしれない。

(きくた まさのぶ・一橋大学名誉教授)

副教材で授業の達人に

酒井 志延



1 メディアを使いこなす教員

教材を何も持たない状態で授業を始めると、10分ほどは保たせられるかもしれない。しかし、口頭での説明だけだと、生徒も理解しにくいから、重要なことは書きたくなる。そうすると、黒板とチョークが欲しい。これでもう少し保たせられるだろう。だが、自分の持っている知識を総動員しても、なかなか週3回の授業をこなすことは難しい。その意味で検定教科書の価値は大きい。これが1冊あるだけで、なんとか1年間授業をすることができる。

けれども、教科書は、紙の媒体でしかもページ数や語彙数などの制限がある。これだけでは、授業が単調になりがちである。自分の英語だけでは不安で、英語母語話者の音声を聞かせたい場合や複数の人が話している状況を提示したい場合はテープやCDを使う。また、中学校の先生に多いが、新出単語を数クラスで練習する時に、フラッシュカードを使う先生もいる。このように全ての教員が、通常複数のメディアを使いこなして授業をしている。そしてメディアを使いこなすごとに教育効果を上げている。つまり、黒板の書き方を含め、教員は年齢を重ねるごとにメディアの使い方がうまくなる。さらに副教材というメディアをも使いこなし、授業を魅力的なものにしていくことができる。

2 副教材を使いこなすメリット

教室で使われている副教材で、一番気合いが入

っているのは、教師が自分で作成する教科通信のたぐいの独自教材だろう。週刊、いや日刊に近い状態で良く工夫されているものをいくつも見せて頂いた。十数年来、朝5時に起きて作っていらっしゃるという先生にもお会いしたことがある。思わず脱帽の教科通信を作っていたらしまった。作り方のコツを教えて下さったが、なまけものの自分には出来そうもないと思った。でも、それほどの情熱をおかけになる気持ちは理解できる。副教材を適切に与えれば、生徒は、教科書とテープ／CDだけでは与えられない興味関心を授業に見ることがあるからだ。いわゆる「食いつきが良い」という感触だ。教室で無気力な生徒を教えるより、「先生の授業はおもしろい」とか「ありがとう、先生」と言ってくれる生徒を教える方がずっと教師冥利に尽きる。つまり、だれでも授業の「名人・達人」になることを可能にする副教材もある。

私は生来どもりがちで、しかも非常に照れ屋なので、人前で話すのが得意ではない。教師としては武器であるはずの話し方に難があるといっても良い。だから、教材の魅力で授業に引きつけることにかけてきた。成功したこともあるし、まったく受け付けられなかったこともあった。しかし、年齢を重ねるごとに、しだいに外れることが少なくなってきたように思う。

3 外れない副教材

外れない「こつ」は何だろうと考えてみる。くりかえすようだが、やはり生徒のレベルにあって

いてしかも生徒を知的に面白いと思わせることだろう。面白いと思うと生徒は本気になる。勉強に本気になると生徒は伸びる。本来ならば、生徒の学習意欲や関心は一人ひとり違うので、生徒分の副教材があっても当然かもしれない。副教材の話ではないが、国語教育でいまでも語り継がれる大村はま先生は、戦争直後の教科書もないすさんだ時代に、勉強の意欲もない生徒たちに、新聞を切り抜いて、一人ひとり違う記事に、学習の手引きを書いて渡し、それを教材にされていたそう。そして、その時の様子を次のように書いていらっしゃる。「そうしたら、どうでしょう。仕事をもらった者から、食いつくように勉強をし始めたのです。私はほんとうに驚いてしまいました。(中略)子供というものは『与えられた仕事が自分に合っていて、それがわかれば、こんな姿になるんだ』ということがわかりました」(大村はま他 2003: 133)。

副教材を与える意味は、大村先生がおっしゃるように、生徒に「やってもいいな」と思わせることだと思う。だからといって、忙しい現在、生徒一人ひとりに特製の教材を渡すような作業に時間をかけることは出来ない。また、大村先生の時代と異なり、豊富な教材が安価で入手できる時代でもある。多くの生徒は同年代で同じような文化を共有し、同じような環境におかれていることもあり、共通する心理状態を見つけるのは、さほど難しいことではない。

4 私を使う副教材

私はクラスによって、2種類の副教材を使う。一つは能力と意欲が高い学生を教える場合で、教科書を超えて養成したい能力を強化したりするタイプである。例えば、語彙強化プリントであれば、授業が始まる少し前に教室においておく、学生はそれをつかんで、辞書を使ってパズルを解く。5番以内に解き終わった者にポイントを与える方式で、頭を使うように出来ている。残りの者

は、宿題でやってこななければならない。この方式で授業を行うと、①辞書を忘れるものはいない、②授業に遅れるものはいない、③パズルで集中するので、授業のレディネスがすでに授業の前でできている、というメリットがある。

もう一つは習熟度が低い学生対象で、ディズニー映画を使い「勉強が楽しい」と思わせる。映画の対話部分を教材として使う。練習する英文にはカタカナをふったものとカタカナをふらないものを並列して渡す。カタカナがないと、できない学習者は読もうともしない。だが、何回か練習しているうちに、「できるだけカタカナのない方で練習しよう」と言う。そうすると、ルビのない方で練習する学習者がしだいに増えていく。数行の簡単な対話だが、練習をチェックして点数を与えるし、練習の後、字幕無しで映画のその部分を見せる。そうするとセリフが聞き取れるので、自分が上達している実感を持つ。回を重ねていく内に熱心になっていくことがわかる。

5 教師が心がけること

副教材を長年使ってきたと言えることは、まず、学習者の実態を把握することの必要性である。実態に合っていない教材を与えておいて、購入させたのだからと言って使い続けるのは、結局生徒から英語の学習の関心を奪ってしまう。つぎに、幅広く副教材を探すことである。業者から無料で送られてきた見本もいいが、書店で売られている教材にも良いものがある。お金を払ってまで買おうとさせる教材とはどんなものか研究することが大事である。そして、学習者に知的に向上しようとする意欲を持たせるためにはどうすればいいのかということを知るためには、教師自身のたゆまぬ研究・研修が必要であることは言うまでもない。

(さかい しえん・千葉商科大学教授)

【引用・参考文献】

大村はま他(2003)『教えることの復権』ちくま新書

Media English の教材収集法

小野田 榮



1 教材としての Media English

躍動感のある Media English の魅力に惹かれ、是非授業で利用したいと思う方も多いことと思う。しかし、教材探しの段になると自分の求めているようなものが容易に手に入らず、あきらめてしまう人、またはたまたま魅力ある記事やニュースが手に入ったときにだけ、利用するという人も少なくないようである。この教材探しがメディア英語を扱う際の問題点なのである。メディア英語は、「生もの」であるがゆえに、すばやく見つけすぐに調理して出さなければ、鮮度が落ちてしまい、価値がなくなってしまうものだからである。しかし、日頃何かと忙しい教師の場合、ゆっくりと教材探しをしている時間などとれないものである。そのような人のために、私の実践を交えながら、簡単な方法をいくつかご紹介したいと思う。

2 市販教材の活用

まず、いちばん簡単なのは、「生もの」としての価値をある程度犠牲にし、市販の教材を買ってしまうことである。この方法のメリットは、世の中で話題となったニュースや記事、あるいは生徒が興味を抱く内容のものが精選されている点である。また、初級者用から上級者用のテキストまで出版されているので、自分の学生の英語力に合わせてテキストを選べばよい。ただし大切なことは、記事やニュースのヘッドラインだけを見てテキストを選ぶのではなく、ざっと流し読みや聞き流しをしてみてから選ぶことである。ヘッドライ

ンは魅力的だが、内容はつまらないということが少なくないからである。さらには、市販のテキストには、語句の解説、エクササイズおよび教授用資料がついているので、自ら情報を調べる手間も省ける。そして最も魅力的なことは、テレビニュースを扱った教材には、ニュースを収録した CD がついており、生徒は自宅でリスニングの学習をしてから授業に臨むことができるため、授業の時間を他の活動に使うことができるという点である。ご参考までに市販のテキストが扱っているものを挙げておこう。

(A)新聞記事・雑誌の場合：*The Japan Times*, *The Daily Yomiuri*, *The New York Times*, *The Washington Post*, *Newsweek*, *TIME*, *The Economist*, *The Herald International Tribune* など。

(B)テレビニュースの場合：*ABC World News*, *BBC World*, *CNN News*, *CBS News World*, など。(出版社：金星堂、成美堂など)

また、これ以外にあまりお金をかけずに教材を手に入れる方法としてお勧めなのが、NHK のテレビやラジオの英会話講座 CD とそのテキストである。特にリスニングを中心にした、「英語リスニング入門」や以前放送していた「3ヶ月英会話ニュースで学ぶ」などは、ニュース原稿、練習問題、語句の解説、背景となる情報も掲載されているので、利用しやすく教材として利用できる形にする手間もかからない。

3 オリジナル教材の作成

次に、実際の新聞記事やテレビニュースを教材

化する方法である。新聞の場合は、高校生対象であれば、駅の Kiosk で売っている日本の英字新聞が手軽であろう。中には、英語教育欄を設けているものもあり、そこには英検準 2 級程度の英語力があれば読めるような短い記事が掲載されている。難しい語句の解説や、和訳までついているものもある。また、中級の読者対象に、パラグラフ構成のしっかりとした読みやすい特集記事を載せてあるものもある。内容も深く多くの観点から問題を掘り下げて論じているため、読み物教材、ディスカッションの題材としてお勧めしたい。

さて、それでは、実際の新聞やテレビニュースから教材を選ぶ際にはどのようにしたらよいのだろうか。新聞を読むのが好きな人であれば定期購読するのがよいが、よほど辛抱強い人でない限りなかなか読み続けられない。学生時代、学生割引につられ、*TIME* や *Newsweek* の定期購読をした経験のある人ならお分かりいただけるだろう。いくつか方法をご紹介します。

(1) 日頃から日本の新聞やニュースを見ていて、興味深い出来事が起こったときなどに英字新聞を買ったり衛星放送のニュースを録画する方法。もちろん、実際に英語の新聞やニュースを見てみると、大した扱いにはなっておらず、使えないということもあるが、良い教材を見つけられることもある。私の場合、この方法で、2 回に 1 回程度の確率でよい題材を見つけている。英字新聞は英語科あるいは図書館の予算で定期購読させてもらい、衛星放送は学校の予算で入れてもらうとよい。

(2) 衛星放送のニュースを毎日タイマー録画し、週に一度早送りでチェックし、興味深いものを選ぶ方法。この方法はテープ代など無駄が多いようだが、1 週間も録画すれば 1 つか 2 つくらいは興味深いものを見つかることができる。

(3) 英語科の仲間の記事やニュースを探し、皆で分かち合う方法。Two heads are better than one. である。この方法を使うとかなりよいもの

が見つかるし作業量も少なくて済む。また話し合うことで指導法を向上させる恩恵もある。

(4) 新聞記事を探す場合、生徒に探させて授業で読みたいものを持参させる方法である。これは生徒の考えや興味を生かすことができるだけでなく、こちらの作業量の軽減にもつながる。またグループごとに、テーマを与えて探させると良いものが見つかる可能性が高い。その際、下記に述べるように、新聞やニュースの websites を教えて探させると良い。この方法は生徒にとって rapid reading の練習にもなる。

このようにいくつかの方法があるが、英字新聞を常にかうのも無駄が多い。そこでお勧めなのが、新聞記事やテレビのニュースの websites にアクセスし、そこから、分野、トピックや時には出版・放送日時などから絞り込んでいく方法である。次のようなものがある。(URL は大修館書店ホームページ <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom> に載せた)

○新聞: *Newspapers Online* (アメリカの主な新聞にアクセスすることができる) / *USA TODAY* / *The International Herald Tribune* / *Newsweek* / *The New York Times* / *TIME* / *The Japan Times* / *The Ashahi Shinbun* / *The Yomiuri Shinbun*

○テレビニュース: *BBC News* / *CNN News* / *ABC News* / *CBS News*

特に、下記の *CNN News* の website にアクセスすれば、放送されたニュースの原稿を手に入れることができるため、授業で利用しやすい。

CNN News: <http://cnm.com/TRANSCRIPTS>

(おのだ さかえ・神田外語大学助教授)

●大修館版〈異文化理解〉教材のご案内
カラーワイド英語百科

(B5判・税込定価900円)

文化情報から最新の知識まで。英語が楽しくなる副教材。

文法から広がる言語の世界

松居 琢実



1 文法は身近なもの

英語の授業をしているときに、ふだん見過ごしている日本語の問題に出くわすことがままある。
生徒：先生，I want a new racket. の a new racket は目的語ですよね。

私：そうだよ。

生徒：じゃ，日本語にするとときどうして〈新しいラケットが欲しい〉となって，〈新しいラケットを欲しい〉とは言わないのですか。〈～を〉となる部分が目的語で〈～が〉となる部分は主語になると思うのですが…。

私：日本語で目的関係を表すときにいつも〈～を〉を使うわけではないんだよ。〈お金が欲しい〉〈りんごが食べたい〉〈この学校に入れば英語が学べる〉〈この病院で最先端の治療が受けられる〉〈彼女が好きだ〉〈あの人が嫌い〉どれも日本語として自然でしょう。僕たち日本人は無意識に〈～を〉と〈～が〉の使い分けをしているけれど，ちゃんと法則性もあるんだよ。

上のように普段気づかずに過ごしている日本語の細かいところを英語の時間に生徒とともに考えていることがある。ちなみに上記の〈～を〉と〈～が〉の交換性の法則については金田一春彦氏の『ホンモノの日本語を話していますか？』（角川書店）に詳しい。氏によれば，「〈～を〉を〈～が〉に置き換えることのできる場面は三通りあり，一つは希望を表すとき，二つ目は能力を表すとき，そしてもう一つは好き嫌いの感情をあらわすとき」とある。日常的に使っていることばに

も実はいろいろな約束事がこめられている。そういう説明を加えていくことで生徒の言葉に対する感度を高めていきたいと思っている。文法とは言葉の使用者が無意識に従っている，とても身近なものであることを理解させたい。

2 文法を学ぶ意義

『新明解国語辞典』（三省堂）によれば文法は，〈その言語体系において，語句と語句とがつながって文を作る時の法則〉と定義される。言語の使い手がその法則を学ぶ意義がどこにあるのか。それを考える手がかりは，言語の種類を問わず，言葉の世界で生きてこられた方々のひとこと，ひとことにちりばめられていると考える。

国語学者の大野晋氏は『日本語練習帳』（岩波書店）の中で「言葉を使うときはいつも相手と関わりたいという心をもつとき。相手が自分について，また自分の思うことについて分かっているところがあるのを，分かってもらいたいと相手に求め，相手の注意を引き，相手の知らない事柄を知らせる。そういうときに言語を使う。泣くとか抱きしめるという行動でそれを表すこともある。言語はそういう表現行為の一つです」「言葉は制度とか決まったものとかではない。しかし思うままに造形する絵画のような，主体性だけによってなされる表現行為でもない。言葉には社会的な規範がある。その規範にかなう形式に従わなければ，主体的に自分の気持ちや事柄を相手に表現することはできない。受け手は規範に従って表現を受け取り，理解につとめる。聞くことも読むこと

も、主体的な能動的な行為です。それは規範に従うことを通して成り立つ」と述べられている。自分の感情や思考を相手に的確に発信し、相手の言葉を正確に受信するために、英語においても日本語においても文法上の知識を身につけ、技能を磨くことは非常に有意義なことなのだと感じることでできる論である。氏の主張を英語の教師が授業で扱っても十分に生徒の心に届くものと考えてる。

文法を授業に持ち出せば、「難しいことは覚えんでもええやん」とか「分かったらええねん」とか「通じたらええねん」と言う生徒が出てくる。彼らの主張をはねのけながら、日本語にしろ英語にしろ、文法知識を積み上げていかなければ、いい話し手にも、いい書き手にも、またいい読み手にも聞き手にもなれないことを説いていかねばならない。「言語の主たる役目は、伝達行為（コミュニケーション）にあるといってもよいと思う」と『日本語と外国語』（岩波書店）の中で鈴木孝夫氏は言われている。ところが、伝達行為をしたいと思っても相手と文法知識を共有していなければ、相手の言い分もわからないし、自分の意思も通じない。文法が欠落すれば、言語の主たる役目を果たせないことになるのだ。

3 文法への学習意欲を高めるために

文を作る時の法則が無秩序で場当たり的なものだと感じさせたのでは、学習者にとって最も大切な学習意欲を削いでしまう。また、文法の指導中に難解な文法用語を多用し、文法の中でも例外的な用法をことさら強調したのでは、生徒の興味は薄れるばかりである。言語を共有する者の間に誤解が生じぬよう、長い年月をかけて醸成されてきた文法の秩序正しさに目を向けさせたい。

文法は秩序正しいとはいっても、身につけるべき文法事項の数量に生徒たちは圧倒されてしまいがちである。手強そうだがやってみようと思ひさせるためには、教師の側に相応の哲学が要求されるのではないか。「試験に出る」とか「入試対

策」という文句だけではモチベーションを十分に喚起することは難しい。文法の丸暗記に主眼を置かず、豊富な文法知識を得たときに広がり、高まる言語の世界を展望させたい。文法を体得して実感できる次のような達成感を絶えず伝えたい。

○英文の成り立ちを知ることで、日本語の理解も深まる。

○英語、日本語ともに読解力が高まる。

○英語、日本語ともに作文力がつき、かつ話す力も聞き取りの能力も増す。（発信も受信もできるようになる）

以上のような利点を説きつつ、文法を押さえることで言いたいことが簡潔かつ明瞭に文章化できることを示したい。また、文法事項を含んだ英文を日本語にしたときに、その文が非常に身近な表現であることにも気づかせたい。

例：That's the same T-shirt that you bought yesterday.（関係詞）

あれは昨日君が買ったのと同じTシャツだね。

This is the store where my mother works.（関係詞）

ここが母の働いている店です。

Have you ever taken a plane trip?（完了形）
飛行機で旅行したことがありますか。

I wish you had told me earlier.（仮定法）
もっと早く言ってくれたらよかったのに。

If I were you, I'd quit that job right now.（仮定法）

僕だったら、今すぐにでもその仕事やめるよ。

I'll make him call you back.（使役動詞）

戻ったら、お電話させます。

やや複雑な状況も文法事項を使うことによって相手との意思疎通が容易になるのである。

（まつい たくみ・滋賀県立甲南高等学校教諭）

●大修館版〈文法〉教材のご案内

Genius English Grammar

（A5判・税込定価600円）

基本的な文法事項の定着から大学入試までカバー。

入試の英単語と学習法を巡って

小林 功



1 長文の頻出テーマは変わったか

入試に頻出するテーマは、依然として、言語・教育・歴史、そして日常生活に関するものなどである。人間とロボット、クローン人間の正当性などといった時宜を得た話題も出題されているが全体から見れば微々たるものである。このことが何を意味するかは明白である。出題される英文のテーマが変わっていないということは、長文で用いられている単語もほとんど変わっていないことを意味している。実際にそうなのかを確認するために、1982年度の入試問題1000題と2002年度の入試問題1000題を無作為に選び、WordSmithというソフトを使って分析・集計してみた。その結果は、予想通りであった。長文で用いられている頻出単語の間に有意な差は全く何も見られなかったのである。つまり、中高の教科書で学習する単語の範囲がどうであろうが、また、新学習指導要領に変わろうが、入試に出題される頻出単語はこの20年間（あるいはそれ以上）ほとんど変わっていないというのが実態である。したがって、中高で学習する単語数が少なければ少ないほど、入試の語彙レベルとの差が大きくなり、それだけ受験対策のための負担が大きくなるわけである。

2 単語力をどう養成すべきか

それでは、入試レベルの単語に対応するには受験生はどういう学習をしなければならないのか。真っ先に思いつくのは、単語集で覚えるというやりかたである。しかし、この学習法は手取り早

いように最も効率の悪い学習法である。たとえば、次のような句があるとする。in our enthusiasm over our progress in knowledge and power (大阪大)。enthusiasm は「熱意」という意味で、progress は「進歩」という意味だから、この句の訳は「知識と力の中における私たちの進歩の上にある私たちの熱意の中で」で良いとする受験生は意外に多い。もちろん、初めは直訳でよいが、その訳が何を言おうとしているのか分からない場合は、たとえば、「知識と能力を伸ばすことに夢中になるあまり」とか訳した方がよくなるということを考えてもみないのである。うまく訳せなくても、せめて何とか分かる日本語にできるようにするには、単語の意味の足し算ですませるのではなく、全体で何を言おうとしているのかを考える習慣を身に付けなくてはならない。そのためには、単語だけで学習してはだめである。

3 できるだけ大きな固まりでとらえる

先日こんな質問をしてきた浪人生がいた。「先生、前置詞をどう訳したらいいのかわからなくなる時があるんですが、どうしたらいいんですか。」どういうことを言っているのかと尋ねると、in response to～という表現のことだった。つまり、in+response+to ととらえて、in をどう訳したらいいのか、はたと困ってしまったわけである。こういう疑問を抱く学生の共通点は、

- ①辞書を見ようとししない（辞書に熟語として載っている）
- ②個々の単語の意味さえ分かっていたら、足し算

で何とか分かるはずだと思っている

③英文を読み慣れていない

などである。個々の単語でとらえるのではなく、できるだけ大きな固まりでとらえる習慣を付けるべきである。たとえば、上で挙げた句に出てくる progress in～も、progress+～ではなく、progress in～という固まりで「～が進歩すること」とか「～が上達すること」という意味だと分かる方が、読みが速く、正確になり、文法問題も解けるようになる。existence という語の場合にも同じようなことが言える。「existence＝存在」とだけ覚えておけばそれでいいと思っている学生が多い。しかし、入試問題には human existence という表現が結構出てくるが、このままの形が辞書に出てくることは少ない。文脈によって「人間」となったり、「人間の生活」となったり、場合によっては「人生」と訳した方がいい場合もある。したがって、human+existence というよりは、human existence という固まりでとらえたほうが良い。

4 英語力はまず語彙力からという考えをやめる

よくある誤解は、語彙力→文法力→熟語力→構文把握力→英文読解力のような段階を経てこそ英語力が付くという考え方である。しかし、これではいつまで経っても読解力は身に付かない。なぜなら読解力養成を本格的にできる時期がなかなかやってこないからである。最も好ましいのは、理解度がどの程度であるにせよ、とにかく英文を読むことである。英文を読みながら、単語、文法、構造把握、熟語などをそのつど押さえて行くべきである。初めはあちこち分からないことだらけでも、何度も見直し疑問点を少しずつ解決していけばいいのである。

5 単語テストのやりかた

授業前に、単語テストを実施している学校が多いと聞く。しかし、果たしてその効果はどうだろ

うか。また、「英語学習＝単語の勉強」という誤解を与えやしないだろうか。確かに、読解力は語彙力と密接な関係にある。しかし、だからといって単語の意味だけをテストするのは好ましいとは言えない。それでも実施せざるをえないというのであれば、たとえば、5行程度の英文中の5～10語くらいに下線を付けて意味を問うというやりかたでどうだろうか。あるいは、文脈によって意味が変わる単語を並べてその多義性を意識させるのも良い。

6 単語だけで学習しても効果が期待できる場合

単語集で学習するのは効果的・効率的と言えないが、抽象度の高い語や一部の多義的でない語に関しては、単語だけで学習させても悪くはないと思われる。たとえば、次のような場合である。

【例】-logy / -ology は、「学問」とか「言葉づかい」という意味だ。この接尾辞を含む語をまとめて覚えよう。

- anthropology「人類学」・theology「神学」
- mythology「神話学」・psychology「心理学」
- biology「生物学」・sociology「社会学」
- physiology「生理学」など。

こういう整理の仕方をしておけば、たとえば、planetology（惑星学）という語が出てきても、学問名ではないかと予想できるようになる可能性がある。

（こばやし いさお・河合塾講師）

●大修館版〈単語・熟語〉教材のご案内

ジーニアス英単語2500 改訂版

ジーニアス英熟語1000 改訂版

ジーニアス基礎英単語・英熟語1440

（新書判・本体価格各1000円）

語法問題に万全の単語集と「出題のされ方」に着目した熟語集。

英語の音声を楽しむ授業

川越 いつえ



1 ああ、コーラス・リーディング！

毎年6月になると、中学や高校の英語クラスを尋ねる。自分の教える英語教員志望の大学生の教育実習を見て回るためである。汗をかきつつ、学校にたどり着く。教室の後ろに腰を落ち着ける。しばらくすると、我が学生がテープレコーダーなどをもって入ってくる。すっかり先生風の顔をして、“Good morning, everyone! How are you?”と声をかける。授業のはじまりである。まず、教材のテープ音声を聞く。次に今度は教師が英文を読み、生徒が声をそろえて読んでいく。コーラス・リーディングである。「もっと元気な声で読みましょう！」などと教師が激をとばすこともある。何十年も前、生徒の私もこの合唱の中にいた。昔と何にも変わっていない風景にほっともするが、一方で、これは何なのかと考え込んでしまう。

「テープを聞いて、コーラス・リーディングをする。これが発音指導になるのでしょうか。」そんな疑問を高校で口にしたことがある。発音指導としては意味がないのではないか、という私の口調に、高校の先生方が口ごもりながら、「クラスに一体感がでますし、元気を出させるのにいいんです」と言われたのを思い出す。コーラス・リーディングで発音がよくなるはずはないのに、なんでいつまでも続いているのかなあ、などと思いつつ、我が授業にもどる。教科書をあけ、次に言ったことは「では、みんなで一緒に声を出して読みましょう。」ああ、私も結局、何となくコーラ

ス・リーディングなのだ！

2 いつものメニューに、スパイスを。

生徒たちをとりまく外の世界は生の英語の音声があふれているが、教室の中では、相変わらず、発音指導に時間のかけられない状況が続いている。単にテープを聞くだけで聞き取りがよくなることはないし、教師についてコーラス・リーディングすると発音がよくなるということもありえない。年中行事になっているような授業のルーティーンに、ちょっとしたメリハリをつけることはできないだろうか。各章の新出単語を教師の後に続いて発音するというのも、よく見る光景であるが、これもひと工夫してみたなら、もっと立派な発音指導になりそうだ。

①テープを聞く：パラグラフをまとめて聞く場合には、聞きながら文のメロディーをチェックさせるとよい。(a)文末が上がっているか(上昇調)、下がっているか(下降調)を矢印で書き込む。(b)強く読まれている単語(強勢拍)に下線を引く。(c)一番強い単語(音調核)に二重下線を引く。(d)区切りに斜め線を引く。(e) What is it? のように、母音で始まる語では、連結のしるしをつける。こうした作業は、負担にならないよう、チェック箇所は1回に1項目。1, 2文を指定してチェックさせてもよい。毎回ほんの1分ほどでよいと思う。そのうちに、音調には下降上昇調もあるし、文中では平板調もあることも聞き分けるようになる。

上述の作業から入って、少しずつ、英語の文メ

ロディーの解説をする。英語のリズムについて、手をたたいて強勢リズム（強勢拍から強勢拍までが、ほぼ同じ時間間隔で発音されて作られるリズム）を実感させるのもよいし、下降調は断定口調だから、命令文の“Sit down, please.”も文尾を上昇調で言うことやさしげになるといったデモンストレーションもよいかもしれない。Wh 疑問文は下降調、とだけ教えるよりも、疑問をしっかりと相手に投げかけるのだから、下降調なので、自信なげに言う場合は Wh 疑問文も上昇調になる、といったところまで踏み込んでも、結構、生徒はついてくる。

②テキストのコーラス・リーディング：元気を出すためのテキストの音読であれば、全員を立たせておいて、読み終わった者から着席させるのも1つのアイディアだろう。早く読むというのは、英語上達の1つの行程だから、スピード競争もよい。指導項目をたてて、コーラス・リーディングするのもよい。たとえば、今週は文のリズムに注意して読む、次は文末音調の重視週間。そんなメリハリもルーティーンの雰囲気を変えてくれる。教師が読んだあと、コーラスでなく、1人を指名するのもよい。その際、ちょっとした発音上のコメントをすると、クラス全員が発音に敏感になる。1人を指名する場合も、たて列を全員立たせておいて、後ろから1文ずつ読ませ、読んだら座るといった方法もある。

③新出単語：教師の“Repeat after me!”の掛け声で、生徒がコーラスで発音する、これでは生徒は何に注意すべきか分からない。アクセントの位置、単音の発音、長い単語では弱音節の弱化、そして、何よりも母音を入れて読むくせはご法度だ。drám が dóramu では英語には聞こえない。

3 耳に残ることばを求めて

今わたしの授業では、映画の名台詞を文メロディーや区切りに注意して練習し、発表させている。仲間の学生の見事な読みに、誰からともなく

オオッと感動がおきる。誰もがお互いの上達にびっくりしている。彼らの中に英語の表現がメロディーとともに入っていく。「先生、あの台詞、迫力ありますねえ。」こんな感想を学生が伝えてくる。英語が生きて身体に入ったなと思う。ことばの意味とともに、音のひびきが耳に残るような英語教育を作りたいといつも思う。

テレビでもラジオでも心ときめく英語の発音がいくらでもある。ベッカム選手のちょっとした一言でもよいし、アメリカ大統領の演説の一文でもよい。ディスクジョッキーの調子のいい英語だっていい。旬の話題をテレビやラジオから切り取って授業にもちこむ。ほんの数秒の音声が発音の授業全体を生ものの味にしてくれる。

大事なことは英文の意味解釈で終わらずに、英語の音を生徒とともに味わうことだと思う。「このtimeの発音を聞いてみようよ、タAIMとアが長いじゃないか、これが英語らしく発音するポイントだよ。」といった具合である。以前ビールのコマーシャルで、「×××ドラアイ」とやっていた頃、授業でずいぶんとあの誇張したrを真似してしまった！教師が英語と日本語の音の違いを楽しんでいれば、生徒はきっと乗ってくる。発音を盛んに教えているクラスで、ポール・マッカートニーの歌の中の単語が聞き取れたとって報告にきた学生がいる。彼の中で、授業の英語が始めて外の世界とつながったのだ。

(かわごえ いつえ・京都産業大学教授)

●大修館版〈音声〉教材のご案内

教科書準拠生徒用CD

- ・ Captain English Course I
- ・ Captain English Course II
- ・ Genius English Course I
- ・ Genius English Course II
- ・ Departure Oral Communication I
- ・ Genius English Readings (税込定価各980円)

教科書完全準拠のCDが求めやすい定価で登場！

「英語Ⅰ」,「英語Ⅱ」を英語で教える ——予習・復習・全訳プリントを使って

山下 和彦



1 英語の授業は英語で! (?)

コミュニケーション活動中心の科目では英語を使って授業を行うことが自然であると感じてきた。しかし、昨年の「英語Ⅰ」、そして今年の「英語Ⅱ」に関しては、英文の内容や文法を英語でどのようにして生徒に説明したり理解させたりすればいいのか、また英語を使った授業でいかに受験等に必要英語力を生徒につけさせるかなど試行錯誤の毎日である。

2 本校生の英語力

英語科の生徒だけに英語を好きな生徒が大半であるが、1割程度はなんとなく入学した者や、周りのレベルの高さに圧倒されて自信とやる気をなくしている生徒がいる。1年生の終了時で約1割の生徒が英検2級を修得、8割以上は準2級以上の英語力はあると考えられる。又2割程度の生徒が長期・短期の海外留学経験者であり、昨年度はオーストラリアの姉妹校からの留学生が2ヶ月から6ヶ月クラスの一員として一緒に過ごした。(留学生の人数、期間はクラスによって異なる)

3 目標

- ① 授業中は教師も生徒も英語を使う。入学早々 classroom English についてのプリント (右図参照) を作成し練習。
- ② インターアクションを重視し、生徒の発話を引き出すようにする。授業中の積極的な発言や質問は評価の際考慮している。

Classroom English

As a general rule I use **only English** in this class. I am not going to allow you to use Japanese during the lesson. However, don't be afraid. You will get used to it soon. When you have a problem, please try to solve it by yourself. The following sentences will help you. Please don't be shy and let's enjoy an English world!

When you have a question;

I have a question.

May / Can I ask you a question?

When you don't understand;

Pardon? / Sorry? / I beg your pardon?

Would / Could / Will / Can you speak more slowly?

Would / Could / Will / Can you repeat that again?

Sorry, I don't understand.

When you can't hear;

Would / Could / Will / Can you speak louder?

When you don't know the meaning;

What does _____ mean?

What's the meaning of _____?

When you don't know Japanese translation;

What / How do you say _____ in Japanese?

When you don't know English translation;

What / How do you say _____ in English?

When you don't know the spelling;

How do you spell _____?

When you don't know the pronunciation;

How do you pronounce _____?

***When you have a problem, don't ask your friend. Ask Me.**



- ③ 英語の内容を理解する事と、和訳する事との違いを認識させ、現段階(高1・2)では速読・速解に重点を置き、授業では和訳をしない。①の classroom English の指導の後、phrase reading / slash reading についてプリントを作成し、指導。1年次では各課の最初に全員教科書の同じ箇所スラッシュを書き込ませ徹底した。
- ④ 音読の習慣を付けさせる。授業中にも数種類のパターンで音読練習をしている。家庭でも練習するよう促している。
- ⑤ 大学受験や英検準1級、2級に対応できる英語の力をつけさせる。

4 授業(例:英語Ⅱ Lesson 4)

☆ 3 単位, 本文の単語数985, Flesch-kincaid Grade Level 7.3

☆ 予習プリント A ——宿題……本文前半(446語, 7段落)の内容に関する質問の答えを書かせる(英問英答)。質問はできるだけ1つの段落につき1つ, 段落が長い場合は2つ, key sentence が答えとなるように作成。ペアで意見交換ができるような open-ended の質問も1つ入れるようにしてある。今回の質問数は10。

●第1時……Aの範囲の新出単語の発音チェックと本文のリスニング。全体で答え合わせをする前にペアでAの答えの確認と意見交換。生徒の英語の発話量を増やす為と, 答えあわせの時に発言し易くするためである。その間に机間巡視をしながら宿題のチェック。その後全体で答えの確認。時間があればAの範囲の重要語句や複雑な文の解説。(必要があれば日本語も使用)

●第2時……Aの範囲の重要語句や複雑な文の解説。その後全体で音読練習。1回目はセンスグループごとに, 2回目はセンテンスごとに教師に繰り返して音読。1回目の練習の際, 必要な生徒は教科書にスラッシュを書き込む。本文後半(539語, 7段落)の新出単語の発音チェックと本文のリスニング。予習プリント B (質問数9)を配布。

●第3時・第4時……復習としてAの範囲の本文をMDで聞きながら読ませる(オーバーラッピング)。余裕のある生徒は教科書を見ずにシャドウイング。その後はBを使って第1時・第2時と同じ内容。第4時の終わりに教科書の文法事項のまとめと練習問題のページを予習しておくように指示。

●第5時……Bの範囲のオーバーラッピング(シャドウイング)。文法事項の解説と練習問題の解答。1年生の時は英語で説明した後日本語でもう1度説明してみようかとも思ったが, 生徒が日

本語に頼って英語を聞かなくなるのではないかと思い全て英語で説明した。しかし, 学年末の授業についてのアンケートの結果, 文法の説明や問題の解説は日本語で詳しくやってほしいという声が多く, 時間短縮のためにも2年になってからは日本語を使うようにしている。1課の重要事項の復習としてワークブックを利用して作成した大学受験問題形式の問題のプリントを宿題として配布。このような形式の問題をやらないと生徒は勉強した気にならないらしく, 生徒を安心させるためにも行っている。

●第6時……宿題プリントの解答と解説。

☆1課が全て終了した時点で本文の日本語訳のプリントを配布。このプリントの利用の仕方は生徒に任せてある。訳を読んで不明な点がある者は個々に質問に来ている。

5 課題

① インターアクションを心がけているが生徒の発話量が少ない。また, 発話の内容もただ, 質問の答えを教科書の中から抜き出して読んでいる場合が多い。その反面, リスニング力はあるように思われる。

② ①とも関連するが, 英語によるアウトプットの量が少ない。要約を英語で書かせたり, ディスカッション等をやらせたりしてみたいが, 3単位ではその余裕はないのが現状である。

(やました かずひこ・大阪市立南高等学校教諭

・kazlightyear@hotmail.com)

●大修館版〈教科書準拠サブ・ノート〉教材のご案内

- ・Captain English Course I 学習ノート
- ・Captain English Course II 学習ノート
- ・Genius English Course I 予習・復習ノート
- ・Genius English Course II 予習・復習ノート
- ・Departure Oral Communication I 学習ノート
- ・Genius English Readings ワークブック

(税込定価各480円)

教科書完全準拠。詳細は16ページをご覧ください。

カラーワイド英語百科 The English Odyssey

■大谷泰照・堀内克明 監修 ■B 5 判・240ページ・税込定価900円

英語学習に役立つ情報が一冊に！

英語を学ぶとき、イギリスやアメリカだけではなく、東南アジアを含めて、世界各地で使われている英語も無視できなくなりました。さらに、単に英語そのものだけでなく、英語を話す人々やその文化についての理解も不可欠です。

また、地球環境問題など、1国1地域では解決不可能な問題も、国際理解の重要なテーマとなっています。

このような、多岐にわたる新しい英語学習の全貌を概観できる資料集、それが本書です。英語を学んでいる方や英語に関心を持っている方であれば、だれにでも活用できるように構成しました。

教室で先生と一緒に読み進めることもできますし、自宅で学習することもできます。

本文見本▼

4

破壊される森林地帯

Deforestation

キーワード

熱帯雨林: tropical rain forest
 焼畑農業: slash-and-burn agriculture
 森林破壊(伐採): deforestation

二酸化炭素: CO₂ (carbon dioxide)
 地球温暖化: global warming

1 What's the problem?

赤道近くのアジア、アフリカ、中南米に広がる熱帯雨林 (tropical rain forest) とサバンナ (savanna) 林を合わせたものを熱帯林といいます。熱帯雨林は、高温多雨地域の熱帯多雨林と雨期、乾期の季節のある地域の熱帯季雨林をあわせた呼称で、サバンナ林は、熱帯季雨林の外側にあり降水量が少ないところにまばらに木や草が生えている地域のことです。地球上の森林面積の45%を、この熱帯林が占めています。

ところが1980年～85年の5年間だけでも、大規模な伐採や焼畑などにより、その面積は毎年1130 haずつ減少しました。これは日本の本州の半分の面積が毎年消失している勘定になります。

2 How did it happen?

家具や建築材料、紙製品の原料にするため、大量の木材が伐採されています。これらは、その大量消費国である日本などの先進国へと輸出されています。

また、焼畑農業 (slash-and-burn agriculture) というのは、森林や草地を文字通り焼いて、その灰を肥料として作物を作る農業方法です。昔からその土地に住む人々が、生活に必要なだけの限られた範囲の土地を焼く伝統的焼畑では、一度焼いた土地は約20年、十分回復するのを待ってからしか次の火を入れないので、森林が荒廃することはありませんでした。しかし、人口増加に伴い、政府の方針等で移住をせられてきた大勢の人々が食料を得ようとして、あるいは先進国による牛肉の需要を確保するために放牧し、20年も待たずに短い周期で、しかも大規模に焼畑を行った結果、多くの森林は回復する前に不毛の地となってしまいました。




■目次から

1. 地球環境を知ろう—地球温暖化／オゾン層の破壊／酸性雨／破壊される森林地帯／ゴミ・廃棄物
 2. 英語圏の国々を知ろう—アメリカ合衆国／イギリス／カナダ／オーストラリア／ニュージーランド／アイルランド
 3. 近隣諸国を知ろう—中華人民共和国／大韓民国／朝鮮民主主義人民共和国／シンガポール共和国／その他のアジアの国々／アジアの英語
 4. 英米の生活を知ろう—アメリカの食生活／イギリスの食生活／住宅／貨幣・買い物／交通機関／服装／年中行事／教育制度／マスメディア／医療制度／アメリカの国民的スポーツ／イギリスの国民的スポーツ
 5. 英米の文化を知ろう—聖書／ギリシャ・ローマ神話／マザーグース／有名人物伝／ヒーロー・ヒロイン／ポピュラー・ミュージック／迷信／ことわざ／詩／小説と詩
 6. 英語の基本を学ぼう—英語とはどんな言語か／英語の文字／英語の語源／発音記号／つづりと発音／単語の作られ方／数字の読み方／句読法／アメリカ英語とイギリス英語／カタカナを使った発音／カタカナ語／和製英語／人の名前／擬声語・擬態語／ボディ・ランゲージ／略語・略称
 7. 英語の使い方を学ぼう—英語の俳句／パズル&クイズ／日記の書き方／手紙の書き方／英字新聞の読み方／履歴書の書き方／留学／日本を英語で紹介する／生活基本語
- 〈異文化理解〉—数式 2×3 は世界共通か？／なぜアメリカ人は九九がいえないか？／虹は本当に7色なのか？／自分の肌の色こそ「あるべき色」なのか？／日・英語の翻訳はどこまで可能か？／外国語を学べば異文化理解は深まるか？ など

ジーニアス英単語2500 改訂版

■新書判・384ページ・本体価格1,000円

ジーニアス英熟語1000 改訂版

■新書判・300ページ・本体定価1,000円

ジーニアス基礎英単語・英熟語1400

■B 6判・352ページ・本体価格1,000円

□『ジーニアス英単語2500 改訂版』には、〈テスト問題自動作成ソフト〉が用意されています。毎日の授業の「小テスト」に、また、定期テストにもご活用いただけます。(Windows95/98版・本体価格7,000円)

GENIUS 英単語2500

新規/再出力

テスト問題の設定

プレビュー&プリント

解答を表示する

GENIUS 英単語2500

2003年 8月22日 3年A組

出席番号 _____ 氏名 _____ 点数 _____

■和文の意味になるように、下線に適切な単語を入れなさい。

1 It is an accepted truth of economics that scarcity _____ value.
希少が価値を生むというとは、一般的に認められた経済学上の真理である。

2 He _____ it to his own efforts that he could get through the difficulties.
彼が困難に打ち勝つことが出来たのは、彼自身の努力によるところである。

3 How did you _____ this painting?
どうやってこの絵画を手に入れたの?

4 She was kind enough to _____ me to the station.
彼女は親切にも駅までついて来てくれた。

5 Everyone _____ him _____ a great singer.
皆が彼を偉大な歌手とみなしていた。

6 On _____ the bedroom, she started sobbing.
寝室に入るやいなや、彼女は泣きはじめた。

問題の再抽出

印刷せずに保存

用紙設定

問題を保存して印刷

① トップページ

‘テスト問題の新規作成’（または‘既出問題の再出力’）を選択します。



② 出題日・出題クラスを指定

（印刷するか否かも選択できます。）



出題形式を選択します。…5パターンから問題の形式が選択できます。



- ・出題範囲の設定…単語番号、または、レッスンで範囲を決めます。
- ・単語番号…単語集に付いている番号で指定できます。
- ・レッスン指定…‘センター試験レベル（動詞）’などが、単語集の章タイトルになります。



③ プレビュー&プリント

できあがった問題が表示されます。〈用紙設定〉→〈問題を保存して印刷〉の順で、プリントできます。

右上の〈解答を表示する〉で解答を確認することができます。下の〈問題の再抽出〉を押すと、同じ条件で違う問題を作成します。

Genius English Grammar

■岡田伸夫 編著 ■A 5判・120ページ・税込定価600円

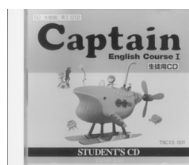
この1冊で文法は万全

- 英語Ⅰ・Ⅱをもとに作成した文法教材です。
- どの教科書をお使いになってもご利用いただけます。
- 教科書で扱った文法事項の定着をはかり、さらに大学入試レベルまでカバーしています。
- *Genius English Grammar Teacher's Manual*
- ・ *Genius English Grammar* の指導書です。授業ですぐに使えるような例文を補足しました。
 - ・ 授業で使える小テスト用補充問題を用意しています（右図は本文見本▶）。

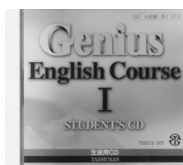


教科書準拠 ノート・生徒用 CD

■生徒用 CD, 新定価（税込定価 980円）でお求めやすくなりました



Captain English Course I
教科書本文／新出単語／
FUNCTION 収録

* *Genius*, *Captain* には、英語Ⅱ（16年度～）もあります。

Genius English Course I
教科書本文 収録



Departure Oral Communication I
発音練習／メインダイアログ
（ナチュラル&スロースピード）
／表現のまとめ 収録

■充実の準拠ノート・サブテキスト

- 教科書完全準拠の生徒用ノート（「学習ノート」「予習・復習ノート」「ワークブック」）
- 授業の予習用に、授業内容の記録に、復習に、ご活用いただけます。（詳細は次ページの表をご覧ください。）

- *Genius English Readings* 読解力養成問題集
- ワンランク上の読解力を目指す生徒向けに、大学入試頻出のテーマを中心に収録した問題集。詳細な解答解説を付しているのので、自習用にも最適。平成16年度からの使用になります。

大修館書店版副教材 一覧

*は16年度より使用分。

副教材名	本体価格	税込価格
カラーワイド英語百科	857	900
Genius English Grammar	571	600
Genius English Grammar Teacher's Manual	2,476	2,600
ジーニアス英単語2500 改訂版	1,000	1,050
ジーニアス英熟語1000 改訂版	1,000	1,050
ジーニアス基礎英単語・英熟語1440	1,000	1,050
Captain English Course I [英 I 012] 学習ノート	457	480
Captain English Course I [英 I 012] 生徒用 CD	933	980
Captain English Course II [英 II 013] 学習ノート *	457	480
Captain English Course II [英 II 013] 生徒用 CD *	933	980
Genius English Course I [英 I 013] 予習・復習ノート	457	480
Genius English Course I [英 I 013] 生徒用 CD	933	980
Genius English Course II [英 II 014] 予習・復習ノート *	457	480
Genius English Course II [英 I 014] 生徒用 CD *	933	980
Departure Oral Communication I [オ I 007] 学習ノート	457	480
Departure Oral Communication I [オ I 007] 生徒用 CD	933	980
Genius English Readings [英 R 005] ワークブック *	457	480
Genius English Readings [英 R 005] 読解力養成問題集 *	457	480

※ご採用見本をご希望の場合には、当社販売部(電話・03-3295-6231 FAX・03-3295-4108)まで、ご請求下さい。

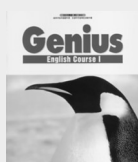
■平成16年度用 教科書一覧



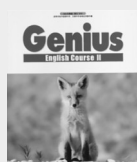
[英 I 012]



[英 II 013]



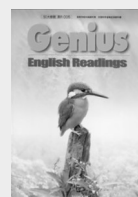
[英 I 013]



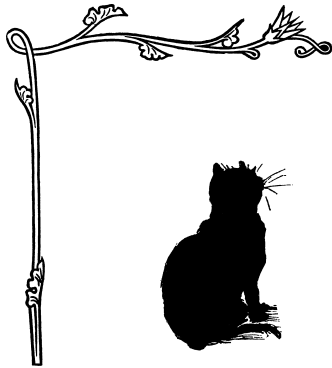
[英 II 014]



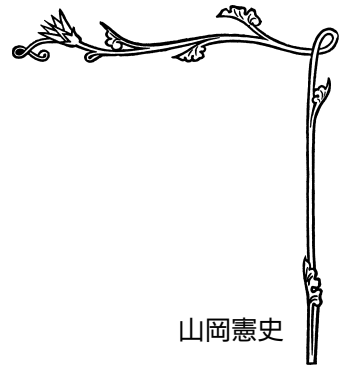
[オ I 007]



[英 R 005]



ちよつとフレイク
読書の時間



斎藤兆史 著

『英語達人塾』

一極めるための独習法指南一』

山岡憲史

花火と火薬

筆者、斎藤^{よしふみ}兆史氏は東京大学大学院総合文化研究科の助教授である。同大学院のHPから入っていくと、斎藤助教授についてのプロフィールがある。専門の紹介には「主に文学を中心とする英文テキストを言語(学)的に分析する研究を行うと同時に、文学と言語学を融合させる理論の確立を目指している」とある。*The Expanding Universe of English*の著者に名を連ねる、東京大学英語教育改革の若き推進者の一人である。

「英語学習を軽々しく論じる人たちは、たとえて言うなら、英語を花火のようにきれいなものだと思っている。火のつけ方さえ覚えれば、誰でも簡単に楽しめるものだと思っている。」(あとがき p. 183)

斎藤氏の主張は終始一貫して、「英語を扱うのは爆弾処理の仕事」であり、「花火ごときの知識では到底太刀打ちできない」というものである。すなわち、文法軽視でただ「ペラペラと」初歩的な会話ができたとところで、それは英語力でも会話力でもなく、単に夜空に一瞬きらめく花火のようなものであって、爆弾を処理する力は身に付かないと語る。

文法・訳読賛歌？

現在、学校英語教育はコミュニケーション重視の方向で改革が進んでいる。新しい学習指導要領にも、「外国語を使って日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身に付けることがどの生徒にも必要になってきているとの認識に立って…」と、日本人の英語によるコミュニケーション能力を引き上げようという意志が強く感じられるし、「英語が使える日本人育成のための

戦略構想」に盛り込まれた種々の構想からも、その決意のほどが窺い知れる。

しかし、斎藤氏は本著で再三にわたり、現在試行錯誤的に行われている「コミュニケーション能力」向上を目指した教育法を批判する。「いままでの文法・訳読中心の英語教育がそのような英語力の養成にあまり貢献してこなかったとの認識に基づいて、あたかも文法・読解学習が間違った英語学習であるかのような議論がなされることが多い。(まえがき)」が、「文法の学習なくして外国語の上達はあり得ない。最近では(中略)文法的な間違いを恐れずに自己表現せよ、というような、学習の基本に反する指導法が好まれる傾向にあるようだが、これは日本の英語教育にとってまことに嘆かわしきことである。(p. 41)」と主張し、「どんなに時代が変わろうが、基礎的なことを何度も何度も繰り返して体の中に練り込むという学習の基本は変わらない。(p. 34)」観光や日常の用足しに「ペラペラ」しゃべれることが英語学習の目的ではない、という主張に溜飲を下げる人も多いであろう。

達人の学習法

しかし、斎藤氏の認識は、よく我々が問題にする「文法か会話か」という二律背反めいた議論とはかなり質を異にする。

本書の随所から知ることのできる筆者の英語力には端倪すべからざるものがある。前述のような主張に触れると、「オーラル」には全く無関心で、ただ文法・訳読の権化のような印象を受けるが、読む・書くという能力だけでなく、いわゆる「オーラル」の面でも卓越した力の持ち主であることは、例えば第10章「視聴

覚教材活用法」で見事に示されている。

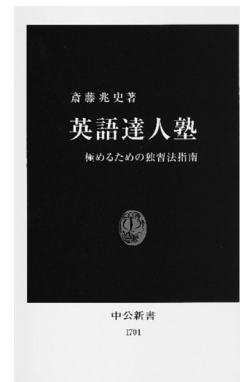
筆者によると、聞き取り用の教材は4種類に分けることができる。まず、「聞き流し」用。これは、英語の音に耳を慣らすことが目的で内容はあまり理解できなくともよい。2つ目は「物真似発声」用。内容は完全に理解できなくとも、時々耳慣れた語句をまとめて聞き取ったときにその発声を真似するやり方。3つ目は「聴解・書き取り」用。いわゆるディクテーションである。4つ目は「反復再生」用。同じ教材を何度も再生しながら物真似発声を繰り返すやり方である。実に見事な分類である。

筆者は、本著の中で、新渡戸稲造、斎藤秀三郎、岩崎民平といった英語の達人の学習法に言及しながら、現代のように英語学習の環境がない時代に、彼らがいかに並はずれた英語力を身に付けたかを紹介しているが、素読や文法解析、暗唱、丸暗記といった、今でこそ形式的で「流行らない」方法こそが、実は理に適ったものであると声高に説く。(過去の達人の勉強法については、同じ著者の『英語達人列伝』に詳しい。)

幣原喜重郎は、毎日4ページ分の英文を覚え、先生の前で暗唱・復習をしたという (p. 70)。西脇順三郎は、若い時分に『ナショナル・リーダー』を始めとする英語の教科書や教材をひたすら丸暗記した (p. 105)。一見非創造的とも思える勉強法の意義を実例を交えて語る筆者の口調の滑らかさの裏には、「いかなる勉強、いかなる技能の習得に置いても、かならずどこかで馬鹿正直に知識を脳に詰め込む段階が必要となる (p. 104)」という信念がある。

作文上達法

「高度な内容のことを口頭で伝えられるようになりたかったら、作文の練習をみっちりやっておくとよい (p. 118)。」—これはディベートの授業などで常々生徒に言い聞かせていることであるが、本書から大きなヒントを得ることができた。斎藤氏は、多読や音読で目にした英文や英語表現をストックしておいて、最初のうちは継ぎはぎだらけでもいいから、見たことのある表現だけを使って作文をする習慣を身に付けるべしと力説する (p. 121)。生徒の書いた英語には壊れた英文が散見する。曖昧な文法知識で英語を構成し、和



『英語達人塾』(中公新書)
斎藤兆史 著 ISBN4-12-101701-3 ¥700 (税別)

英辞典で見た単語を前後関係や意味用法を無視して当てはめているだけの「ひとりよがりの英語」である。

いくらコミュニケーション重視と言っても、無から有は生じない。挨拶程度はできたとしても、英語のストックが貧弱ならば、決して有意な内容の英語は話せないのである。深い内容に関して「ペラペラ」にはなれない。

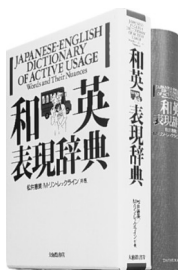
英語修業

しかし、考えてみれば、現在コミュニケーション主体の英語教育を推進する私たち教師も、その昔は、程度の差こそあれ、暗唱や音読、文法解析といった伝統的な方法で勉強してきたのである。私自身が最も英語力が付いたのは、ボロボロになるまで英英辞典と格闘して和英辞書の編纂をしていた時と、いくつもの映画の台詞を全て transcribe するという半ばマニアックな勉強をしている時であった。日本人にとって英語の学習が困難を伴うことを自覚して、あくまでも基本に忠実に訓練するしかない、という斎藤氏の考えは極めて正しい。いたずらに学校文法や訳読を敵視するのではなく、手垢にまみれたように思える学習法の中に光る真実を、コミュニケーションという目的に使うための魅力ある輝きにするのが私たちの務めであると、本書を読んで考えた。

(やまおか けんじ・滋賀県立米原高等学校教諭)

和英表現辞典

松井恵美／M・リン・レックライン 共著



溝畑保之

(大阪府立鳳高等学校教諭)

文部科学省の「英語が使える日本人育成のため」の行動計画が動き出し、実践的コミュニケーション能力の育成が叫ばれ、様々なかたちで発信型への移行が模索されるなか、自然な英文を書くための辞書の到来が待たれていた。

まず、この『和英表現辞典』は、1321に及ぶ日本人が英語で言えない表現や、誤りを犯しやすい表現を精選していることが特徴である。日本人の誤りを長年研究してきた著者が取り上げたものは、よく筆者が授業中に出くわす高校生レベルの誤用と重なる。このような表現を英語に直す際の留意点を効果的に盛り込んでいて、授業での解説の参考となる。例えば、日本人が好む「よい思い出をつくりたい」という発想自体が英語になりにくいことや、「～したいと思う」が決して I think I want とならないことを解説している。また、「すること」p. 251の項では、不定詞の使用について factive (事実 に立脚) と non-factive (事実 に立脚しない) の観念を区別することが日本語にないことを述べた解説が参考になる。

他には、関連語 (音楽、学校、感情、住居、など) と類義語 (結果、行為、退屈など) の持つ微妙な意味の違いが親切にリストで提供されている。イラストでの図解 (家、体、自動車など) も適所に見られる。見出し語で「擬声語」の項を引くと、「のろのろ」「いそいそ」「しとしと」などに加えて、自然界の音や動物の鳴き声をまとめて挙げていることも特色である。

自然な英文を書こうとして他の和英辞書で行き詰った時に、異なる観点から英語への道しるべを示してくれる辞書であることは勿論、読んでおもしろい辞書としても活用したい。

最新アメリカ英語表現辞典

市橋敬三 著



生田省三

(愛知県立刈谷高等学校教諭)

書名が表すとおり、この本は辞典である。ただし、これまでの多くの辞典が英英辞典や別の英和辞典を参考にしながら作られているのに対し、この辞典は74名の太卒米人インフォーマント (30から45歳) の意見によっている。今まさに、アメリカで使われている、いやむしろ話されている標準的な英語に焦点を当てて編纂されている。

例えば、「痛い」と言う項目では、痛みの箇所、痛みぐあいなどにより、6頁を割いて事細かに説明している。それを見ていくうちにそれを表すいろいろな表現とそのニュアンスを知ることができる。

また、これまでの辞典で「夕方」と言えば必ず、evening であったが、次の記述など、思わず「そうだ」と相槌を打ちたくなる。

〈私に夕方電話しないで下さい〉

- ◎A Please don't call me late in the afternoon.
- △B Please don't call me in (the) late afternoon.
- ×C Please don't call me in the evening.

◆辞典にCが出ているが使われていない。

教育現場では、アメリカ英語だけを扱うというわけではないので、アメリカ英語と限定されるのは、ちょっとどうかと私自身思ったのであるが、ありがたいことに各所に「アメリカでは使われないがイギリス英語ではよく使われる」と言った記述がある。こういう著者の気配りがうれしいものである。

この辞典は和英辞典と同じ編纂形式になっているので使いやすい。昨今、和英辞典も目白押しに出ているが、その和英辞典の横において、ちょっと確認するという使い方を私はしようと思っている。いろいろな新しいことを教えてくれる辞典である。

英語教育21世紀叢書

〈新刊 4 点〉



早川幹弘

(愛知県立千種高等学校教諭)

『英語力はどのように伸びてゆくか』

—中学生の英語習得過程を追う— (太田 洋 他著)

新しいカリキュラムの導入に伴い、授業を円滑に進めるためには、新入生が中学校で何を学習してきたのかを高校教師が今まで以上に確認する必要がある。今回、本書を読み、中学生の英語学習の実態を知る上で大変力強い味方が現れたと思うと同時に、高校教師が中学教科書を目を通して文法事項や学習語彙を知るだけでは不十分だと痛感した。本書では4名の著者が東京学芸大学附属世田谷中学校で学んだ生徒の膨大なデータを丹念に調べ上げ、中学3年間で生徒がどのように英語を学んでいくかを実証的に研究している。生徒が中学校3年間で接する語彙と生徒が実際に使える語彙、生徒の語彙サイズと英語力との関係、文法の習得過程等々が、膨大な資料の検証を裏付けにして報告されている。英語教育に携わる者にとって、本書は初期の英語学習者の様々な特徴を知る上で大いに参考となる。

(本体価格1,900円)



『「苦手」を「好き」に変える英語授業』(瀧口 優 著)

授業がうまいと唸られる先生には、教材への切り込み方や授業の工夫は言うまでもなく、生徒を見る観察力の深さに感心させられる。本書で瀧口優先生が紹介する、生徒の興味や関心を喚起する授業アイデアは、緻密な生徒観察力・生徒理解に裏打ちされており、そういう方法もあるのかと感嘆させられる。生徒との問答形式による「授業ノート」の作成や年間100号を越す「教科通信」の発行は、分かる授業をしよう、生徒と密なコミュニケーションを取ろうとする瀧口先生の熱い情熱の現れなのであろう。また、目の前の生徒に合わせて、学習ステップを到達目標まで無理

なく組む瀧口先生の手法は実に巧みである。生徒は授業に魅せられ、夢中になり、英語が苦手な生徒も徐々に英語好きに変身していく。

(本体価格1,700円)



『英語教師のための Excel 活用法』(清川英男 他著)

英語教師が使うコンピュータソフトはワープロソフトが多く、表計算ソフトは単純な成績処理に利用する程度ではないだろうか。表計算ソフトに関する解説書を読めば、様々な機能が使いこなせるようになるのかもしれないが、読む時間がなかったり、難解な解説のために読み通すことは難しい。しかし、本書を読むと、「英語教師の」という枕詞が付いているだけに、英語教師にとってすぐに使える機能が精選されている。たとえば、素点や記号の評点への変換法、評点分布表の作成法、考查問題の妥当性を弁別力係数で測る方法等が丁寧に紹介されている。授業改善を図ろうとすると、本書を参考にすればデータ処理に費やす時間と労力が大幅に節約でき、大きな成果が期待できそうだ。

(本体価格1,800円)



『日本語を活かした英語授業のすすめ』

(吉田研作・柳瀬和明 著)

第1部では、コミュニケーション・アプローチの本来の考え方、日本での英語教育におけるこのアプローチの有効的な扱いについて吉田研作先生が説明している。コミュニケーション・アプローチを使って英語を指導する際、全て英語で教えなければいけないと考えがちである。しかし、日本が抱える特殊なEFL環境では、日本語の適切な使用が本来の考え方に合致するものであることを、吉田先生は多くの研究成果を引用しつつ科学的に説明している。

第2部は、柳瀬和明先生が日本語とは異なる特徴を持つ英語で日本人が自己表現する際の秘訣を紹介している。両言語を比較分析して各言語の特徴を明らかにし、日常使われている日本語を英語にしやすい日本語に変換するための「5つの処方箋」を紹介している。また、それに基づく授業展開例、生徒配布用プリントも掲載され、日本人生徒が英語で表現する際につまずきやすい部分を克服する授業が、明日からでも実践できるようになっている。

(本体価格1,700円)

Genius Captain Departure 教科書 Question Box

■ ■ ■

このページは、大修館書店版英語教科書に関するページです。題材についての最新ニュース、本文の読みをめぐる Q & A、副教材のお知らせなど、教科書ごとにご紹介いたします。

■ GCD Teacher's Room (英語教科書ホームページ) 開設しました！

大修館版英語教科書をご使用の先生方のためにホームページを開設いたしました。授業に役立つ情報満載です。以下のような手順でご覧いただけます。是非一度、ご来室下さい。

①お手持ちのブラウザで <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/> を開きます。

↓

②トップページ

● “英語教育最新 TOPICS” —— 英語教育に関する話題を毎月更新して載せています。

“最新 TOPICS” の下に、各教科書のボタンがあります。(左の枠〈フレーム〉内の ‘Please select!’ の部分からも各教科書のページへジャンプできます。)

↓

③各教科書のページ

● “NEWS” または “Cafe” —— 教科書の題材についての最新情報、エピソードなどをご紹介します。授業の導入などにお使い下さい。

● “題材リンク集” —— 各 “NEWS” または “Cafe” の下にあるボタンか〈フレーム〉から開きます。教科書の題材について記述のあるホームページを紹介しています。見出し部分をクリックするとそれぞれのページにジャンプすることができます。教材研究にお役立て下さい。(詳細は巻末広告もご覧ください)

※各教科書のシラバスも掲載予定です(’03.9月下旬～)。ご参照ください。

Genius English Course I

Q. Lesson 2 の音声 CD の声は Valerie Koehn さん本人か。

A. Lesson 2 の音声 CD は Valerie Koehn 先生に吹き込みをお願い致しました。そのほかにも、全課の Pronunciation の部分、Lesson 7 の本文と New Words の音声は Valerie 先生に吹き込んでいただいております。

Q. Lesson 5 にでてくる豊島(ゆたかじま)の正式名称は「とよしま」ではないか。

A. 確認をとりましたところ、ご指摘の通り本課の舞台となった島は「ゆたかじま」ではなく、「とよしま」でした。来年度用の供給本では修正致します。ご指摘ありがとうございました。

Q. 指導用 CD-ROM から原文テキストデータや評価問題集のデータを開くにはどのようにしたらよいのか。

A. 以下の手順で、各種データを開くことができます(大修館版英語教科書 *Captain* と *Departure* の準拠 CD-ROM も同じ手順で開けます)。

① CD-ROM をお手持ちのパソコンの CD ドライブに挿入してください(インストール画面が出てきた場合は「キャンセル」をクリックしてください)。

② 「マイコンピュータ」をダブルクリックしてください。

③ CD ドライブ(「Genius i 2003」と表示されます)を右クリックした後に「開く」を選択して左クリックしてください。

④ 原文データの場合は「text」と表示されたフォルダを、評価問題集のデータの場合は「hyoka」と表示されたフォルダをダブルクリックしてください。レッスン番号の名前のついたファイルが展開されます。

⑤ 必要なファイルを選択してください。

Captain English Course I

Q. 生徒に運動した分のカロリー消費量を計算させたいが。(Lesson 5)

A. *Teacher's Manual* の巻末資料に簡単な計算方法があります。また、詳しくは、<http://skd.infoseek.livedoor.com/7.html> でも、ご覧になれます。

Q. レッスン終了後に、文法の確認をしたいが、適当な補充問題があるか？

A. 「言語活動問題集」〔教授用指導資料〕同梱の巻末に「文法確認小テスト」が入っています。レッスンごとに小問とヒント、解答が1ページにまとまっています。是非ご利用下さい。

文法確認小テスト Lesson 4	過去形	年 組 氏名	/50
[A] () に適切な単語を書き入れ、文を完成させよう。(5点×5) 1. I am a junior high school student. → I () a junior high school student two years ago. 2. I live in Osaka. → I () in Osaka two years ago. 3. I go to the shop every day. → I () to the shop two years ago. 4. I don't have much money. → I () () much money then. 5. I'm not happy. → I () () happy then. [B] () に適切な単語を書き入れ、日本語の意味を伝える過去の文を完成させよう。(5点×5) 1. 私が中学生のとき、私たちは良い友達だった。 When I () a junior high school student, we () good friends. 2. 私たちは図書館で勉強した。 We () in the library. 3. 彼女が私にその図書館のことを話した。(tell の過去形を使う) She () me about the library. 4. それは大きい図書館だったのですか？ () it a big library? 5. 彼女がそう言ったのですか？ () she () so? ◎ヒント [A] まず、is, am, are を使っている be 動詞タイプの文なのか、それとも一般動詞 (live, study, go など) の文なのかを見分けることが大切。1. もとの文 (現在形の文) が is, am, are を使っている be 動詞タイプの文ならば、それを過去の文に変えるには、is, am を was に、are を were に変えればよい。2. 一般動詞 (live や study など) の文であれば、動詞の最後を ed で終わらせるようにするが、3. の go → went のように不規則なものに注意する。4. don't は didn't に、5. am not は was not になる。 [B] この問題も be 動詞か一般動詞かを考えて入れる。4. は一般動詞がなく、肯定文は It was a big library. になり、その was を文頭に出して疑問文にする。5. は「言う」という一般動詞を使うので、疑問文は Did で始める。 ◎解答 [A] 1. was 2. lived 3. went 4. didn't have 5. was not [B] 1. was, were 2. studied 3. told 4. Was 5. Did, say			

Q. 歌 Someone Loves You Honey, Dancin' In The Round (WA になっておどろう) の選定理由は？

Departure Oral Communication I

Q. 『評価問題集』のうちリスニング問題の音声は、どこに収録されているか？

A. 『指導用 CD』Disc 5 の「Hyoka」に収められています。ただし、標準編の問題のうち一部は教科書本文と同じ音声を聞く設問のため、この部分については「Textbook」のディスクから該当箇所の「Dialog」をお聞きいただくようになります。

Q. 教科書準拠 CD-ROM の内容は？

A. ①教科書本文テキストデータ、②教科書リスニングスクリプト、③評価問題集、④評価問題集リスニングスクリプトに加え、今回の CD-ROM では自動ディクテーション問題作成ソフトを搭載しました。教科書の Listen & Speak, Dialog について、初級・中級・上級の3つのレベルで穴埋め(ディクテーション)問題を作成することができます。



Q. 「Vocabulary Board」にない学校用語を補充したいが (Lesson 3)。

A. 小社刊行の『学校用語英語小事典(改訂増補版)』(竹田明彦著、本体2200円)で、教科名、行事などについてさらにくわしい解説・用例を紹介しています。

A. 前向きで元気な曲、しかもサビの部分で歌いやすいものを選びました。後者は長野オリンピックのテーマ曲でV6によるカバーヴァージョンもあります。

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆月刊『英語教育』10月増刊号

特集1：ハリー・ポッターのイギリス

特集2：英語教育資料2003年

〈特別記事〉SELHiは今!?

〈座談会〉小中高一貫の英語カリキュラムを探る

(9月15日発売・B5判・128頁・定価1,500円)

◆英語教育関係の新刊について、p.21～22に書評が
ございます。ご覧ください。

◆10月中旬刊「英語教育21世紀叢書」

伊村元道 著『日本の英語教育200年』

望月正道 他著『英語語彙の指導マニュアル』

○ お願い ○

『G.C.D.英語通信』は、先生方と小社英語教科書編集部との意見や情報交換の広場です。小社教科書についてのご質問、お使いいただいたご感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD教科書 Question Box」で随時ご回答・ご紹介してまいります。

また、英語や授業に関わるさまざまな投稿、特に下記のテーマに関するものなどをお待ちしております。

- ・授業レポート…特色ある授業の実践記録
- ・授業実践シリーズ…小社教科書を使った授業の紹介
- ・英語教師のひろば…英語教育全般

ご投稿は、郵便でお送りください。採用分につきましては、発行後、薄謝をお送りいたします。なお、採用・不採用にかかわらず、原稿はお返しいたしません。また、採否のお問い合わせには応じかねます。あらかじめご了承ください。

◆営業便り◆

*9月になり、先生方におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。平成16年度用教科書選定の折には、当社営業マンが先生方の元へおじゃまし大変お騒がせいたしました。改めてお詫び申し上げます。また、弊社発行の教科書をご採択いただきました先生方には心より御礼申し上げます。教科書はもとより、指導書・副教材等、何かご不明の点がございましたら、お手数でも弊社担当の営業マンか最寄りの営業所、もしくは本社販売部までご連絡ください。

*今秋、弊社は『ジーニアス英和辞典 第2版』を刊行いたします。初版発行以来6年振りの初めての改訂新版となります。『ジーニアス』をご愛用いただいている先生方へ、私どもが自信を持ってお勧めできる辞典です。『ジーニアス英和大辞典』『ジーニアス英和辞典 第3版』(G3)、『アクティブジーニアス英和辞典』『ベーシックジーニアス英和辞典』など充実したジーニアスファミリーの辞典類ともども、今後ともご愛用いただきたくお願い申し上げます。『ジーニアス英和辞典第2版』などの先生方へのご紹介は11月頃になるかと存じます。見本等のお問い合わせも弊社営業担当へお願いいたします。

◆編集後記◆

▶英語による「多読」を始めて半年がたちました。読んでるのは、いわゆるgraded readers。やさしい英語で書かれているとはいえ、なかなかどうして面白いものも多く、内容も歴史物、古典作品、映画のノベライズ、ミステリー等々バラエティに富んでいて、“英語を読んで分かる楽しさ”を満喫しています。分からなければとばす、つまらない本は止めるという方法が、おおざっぱな性格に合ったこともあります。何よりこの“楽しさ”が続ける原動力だと実感しています。

▶「英語教員研修プログラム」が、この夏いよいよスタートしました。定時制高校で教える従兄弟は、研修と部活動の両方で、普段よりも忙しい夏休みだとこぼしていました。講師として全国を飛び回っている先生方の、超過密スケジュールも聞こえて参ります。

▶英語教育による成果が‘英語が使える日本人’という目に見える形で求められている今、小社の副教材が少しでも授業のお役に立ち、また生徒の皆さんに“英語を学ぶ楽しさ”を伝えられれば幸いです。(菜)

Genius・Captain・Departure

英語通信

第33号

2003年9月1日発行

(年3回発行)

【出版情報】<http://www.taishukan.co.jp>

編集人 ©「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店

101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24

Tel. (03) 3294-2357(編集部) / (03) 3295-6231(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 文唱堂印刷株式会社